

|              |   |
|--------------|---|
| Title        | 未来共創 8号 編集後記  |
| Author(s)    | 木村, 友美  |
| Citation     | 未来共創. 2021, 8, p. 359-359   |
| Version Type | VoR   |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/83917">https://hdl.handle.net/11094/83917</a> |
| rights       |   |
| Note         |   |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ジャーナル『未来共創』第8号が、今年度も無事に刊行されました。本号では査読論文2本、特集論文4本、報告4本、研究ノート3本、書評3本、エッセイ4本、そして、フォーラムとして2本の論考が掲載されました。フォーラムは、本号から新たに設けた区分です。人間科学研究科の大学院生たちが、それぞれの経験をもとに、大学教育（とくに博士課程教育リーディングプログラム）に対する想いや葛藤を率直に語り、「共生」、「共創」に対して問題提起をしています。フォーラムという形で掲載することにしたのは、この論考をより開かれた議論に展開していきたいと考えたからです。読者の皆様からの応答、ご意見をお待ちしています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きくうけた一年でした。本号の特集「コロナ時代に考える『レジリエンス』」では、オンラインとのハイブリッドによる研究会を実施し、議論を重ねてきた結果として4本の論文が掲載されています。「困難な状況への対応」を様々な角度から考える一年となりました。研究会から特集執筆まで精力的に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

今年度未来共創センターで実施してきた公開セミナー等の各種イベントは、そのほとんどがオンラインでの実施となりました。その一例として、「コロナ禍での多文化共生」について語り合った「まなびのカフェ」は、箕面市国際交流協会との共同で工夫をこらして実施され、本号にその様子が掲載されています。その他、本号に掲載された研究ノートや、未来共生フィールド報告、マイノリティ教育ラボの報告でも、コロナ禍での活動の様子がリアルに伝えられています。この先、何年か後に本号を読み返すときに、この時の様々な状況が思い起こされることでしょう。

最後になりますが、これまでジャーナルの編集を中心に担ってくださった脇阪紀行先生が今年度ご退職されます。先生のご経験とお考えが詰まった『『共生のジャーナリズム』考』も本号に掲載されていますので、ぜひ多くの方にお読みいただきたいと思います。

執筆していただいた皆様、そして査読していただいた先生方に心より御礼申し上げます。また、レカボラ編集舎の小野寺佑紀さんには、今回も丁寧な編集作業をしていただき、感謝いたします。

大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター・講師  
木村友美

発行 2021年3月31日  
大阪大学人間科学研究科附属未来共創センター  
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2

編集協力  
レカボラ編集舎 小野寺佑紀  
デザイン 有限会社ブックポケット